

将来に先送りせず、高レベル放射性廃棄物の地層処分に向けて着実に取り組む必要があります

■ 原子力発電から出た放射性廃棄物が、処分されないままになっています

エネルギー資源に乏しい日本では、原子力発電で使った燃料は再処理され、有効活用されることとなっています。その過程で残る再利用できない廃液と融かしたガラスを混ぜ合わせ、ステンレスの容器に入れて固めたものが高レベル放射性廃棄物です。これは強い放射線を出しますので、厚い金属容器に封入するなどの対策をして、地表から300メートル以上深い安定した岩盤に埋設（地層処分）することとしています。

現在、高レベル放射性廃棄物の本数は、約2,500本。さらに、既にある使用済み燃料を今後再処理することによって発生するものを含めると、約26,000本になります。これらの高レベル放射性廃棄物は私たちが過去50年以上にわたって利用してきた原子力発電に伴って発生するものであり、将来に先送りせず、地層処分に向けて取り組む必要があります。

■ 地層処分の実現には、多くの方に関心を持っていただき、理解を深めていただくことが重要です

北海道では、寿都町、神恵内村で文献調査を始めさせていただき、地層処分に関する対話が行われています。しかし、この問題の解決には一人でも多くの方に関心を持っていただき、理解を深めていただくことが重要であり、NUMOは全国の様々な地域で地層処分に関心を持っていただけるよう、これまで130回を超える対話型全国説明会を開催するなど、地層処分に関する情報提供と対話活動に取り組んでいます。NUMOは、この取組みを引き続き全国各地で開催してまいります。



NUMOのホームページでは、寿都町、神恵内村での文献調査の状況等についてご紹介しています。ぜひご覧ください。



←寿都町



←神恵内村

対話型全国説明会の開催予定など、地層処分に関する様々な情報をホームページでご案内しています。ぜひご覧ください。



原子力発電環境整備機構（NUMO）

<https://www.numo.or.jp>

NUMO